

新型コロナウイルス感染症拡大予防のための外出自粛要請が解除され、3月以降中止となっていた自然観察会が再開されました。参加者は以前ほどの人数にはなりませんが、初夏を迎えた森の表情を楽しみました。

里山の家での持ち込み観察項目：ヤマトサンショウウオ、イセノナミマイマイ、カタツムリ(未同定)、ネトクワガタ、コクワガタ、ヒラタクワガタ

最初にオタマジャクシ池の近くのクワの木を見に行きました。去年も同じ木の実が菌による病気で白くなり、食べられるものがほとんどありませんでしたが、今年も同様に食べられそうな実は僅かでした。続いて大坂池の周辺に植えられたカキノキやアンスの実を観察しましたが、こちらはきれいな状態でたくさん実っていました。アンスの実から種を取り出してみると、アーモンドによく似た形であるのが確認できました。



白くなったクワの実



カキノキの実



アンスの実

中道沿いのアベマキの幹をコウガイビルが這っていました。オオミスジコウガイビルと言って3本の筋状の模様が特徴です。ヒルという名前がついていますが実際にはプラナリアの仲間であり高い再生能力を持っているそうです。コナラの葉の上にいるハゴロモの幼虫は手を近づけると跳ねて下に落ちました。またその近くでナナフシモドキを見つけました。枝に擬態していると言われ、樹上にいるとなかなか気がつかない昆虫です。



オオミスジコウガイビル



ハゴロモの幼虫



ナナフシモドキ

中道沿いのコナラの幼木の新芽が赤い色をしていました。これはアントシアニンの色で、若い芽が紫外線の害を受けるのを防いでいるそうです。すぐそばの別のコナラの葉の上に3ミリほどの甲虫がいました。写真を撮って大きくしてみるとハムシのようで細かい毛に覆われていました。あとで調べるとカサハラハムシの仲間のようなものでした。せせらぎを渡り、ウメの木を観察すると、この木につくタマカイガラムシを餌とするアカホシテントウが葉の裏にたくさんついてじっとしていました。初夏に羽化して葉裏で越冬するそうです。



コナラの新芽



カサハラハムシの仲間



越冬するアカホシテントウ

シンジュの葉は「奇数羽状複葉」と言って、通常羽状に出た小葉の数は奇数ですが、中には偶数に見えるものもあり、それは先端の1枚が未熟な状態とのことでした。少し移動した所で、太いアベマキのウロに水がたまり、中に足のないイモムシが何匹か見えました。ガガンボの幼虫でした。おしりの先を水面に出しているように見えました。また同じ場所にいたキセルガイをよく見ると殻の上に小さなカタツムリを載せていました。



偶数に見えるシンジュの複葉



ガガンボの幼虫



キセルガイ(とカタツムリ)

カエル好きの少年が、去年に比べると同じ時期に田んぼの周辺にいる**ニホンアカガエル**の数が圧倒的に少ないと言って心配していました。その後**ウマノスズクサ**が花を咲かせているのを見に行きました。花は筒状になっていて、匂いで虫を奥の丸い部屋に誘導して受粉させるしくみとのことです。さらに進むと道沿いのコナラの**樹液**に**昆虫**が集まっていた。サトキマダラヒカゲ、ノコギリクワガタのメスとオス、ネプトクワガタ、**ヨツボシケシキスイ**を確認することができました。トウチク林では夥しい数の**タケノコ**が出てきていて、参加者みんなで次々と蹴り倒しました。竹林の脇に生えているノブドウの葉には大きな**コスズメ**の幼虫が育っていました。



ニホンアカガエル



ウマノスズクサの花



樹液に集まる昆虫



ヨツボシケシキスイ



トウチクの
タケノコ



コスズメの幼虫

この日は成長したクモの姿をいくつも見かけました。**ヤマシロオニグモ**は網を張るクモですが、この時はササの葉の付け根に身を潜めていました。**コガタコガネグモ**はX字状に二本ずつ足をそろえて網の中央にとまっていた。また**ゴミグモ**はよく見ると食べカスなどでできたゴミのリボンの中に**卵囊**をつけていました。



ヤマシロオニグモ



コガタコガネグモ



ゴミグモと
卵囊

道端のカラスウリの葉の上に大きなヤゴの抜け殻がありました。水路からは随分離れており、長い距離を歩いて来たものだと参加者が感心していました。そして少し離れたところに**オニヤンマ**がとまっていた。近づいても飛び立たないのは羽化したばかりのためであろうと思われ、ざきほどのヤゴの抜け殻の主ではないかと予想しました。里山の家近くまで戻り、花盛りの**アカメガシワ**の雄花を観察しました。匂いを嗅ぐと優しい香りがしました。里山の家に着きましたが中には入らず、密にならないよう適度な距離をとって**振り返り**を行いました。



オニヤンマ



アカメガシワ(雄株)



振り返り

平和公園での観察項目(観察順)：クワ、クワの実、カキノキの実、アンズ、アンズの実、ハナムグリ、ツマキホソハマキモドキ、カメムシの仲間、コウガイビル、モリチャバネゴキブリ、ナナフシモドキ、キマワリ、サワフタギの虫こぶ、ハゴロモの幼虫、コナラの新芽、カサハラハムシ、ソシンロウバイの実、ニンジンの花、タンポポ、モンシロチョウ、アカホシテントウ、タマカイガラムシ、イセノナミマイマイ、シンジュの葉、シンジュの実、トウネズミモチ、シャクガ、クサグモ、キセルガイ、ニホンアカガエル、オオカマキリの幼虫、ヨモギハムシ、セマダラコガネ、ヤマシロオニグモ、コカマキリの幼虫、オオバコ、オニヤンマの抜け殻、カラスウリの巻きひげ、ヒメウラナミジャノメ、ウマノスズクサの花、ハゴロモの幼虫、トビズムカデ、ネプトクワガタ、ヨツボシケシキスイ、オオスカシバ、トウチクのタケノコ、コスズメの幼虫、マルズヤセバエの仲間、ツチイナゴ、ドクダミの花、ムラサキシキブ、イチモンジカメノコハムシの幼虫、ヨスジノメイガの幼虫、センチコガネ、ヒメコウゾの実、サトキマダラヒカゲ、ノコギリクワガタ、オジロアシナガソウムシ、センチコガネ、コガネグモの仲間、ゴミグモ、コムラサキの花、キノコ、ナンテンの花、オニヤンマ、アカメガシワ(雄株)、カルガモ、オオシオカラトンボ、ウグイスの声